

旧国立駅舎 東西広場・円形公園 整備基本方針

令和4（2022）年7月

国立市



目 次

①	はじめに	・ ・ ・ ・	1
②	整備の基本的な考え方	・ ・ ・ ・	6
③	東西広場の整備について	・ ・ ・ ・	10
④	円形公園の整備について	・ ・ ・ ・	12
⑤	国立駅周辺の都市デザインの方 向性	・ ・ ・ ・	14
⑥	整備の実現と活用に向けた取組	・ ・ ・ ・	16

1 はじめに

1-1 整備基本方針の目的

国立大学町のまちづくりの歴史や理念を継承し、4年後、令和8（2026）年に国立駅が100周年を迎えるのにあわせて、国立駅前がより市民や駅利用者のための広場空間として活用されるように、「旧国立駅舎東西広場・円形公園整備基本方針」（以下「整備基本方針」という。）を策定します。

整備基本方針では、旧国立駅舎に隣接する東西の土地に整備予定の東西広場及び円形公園（以下「東西広場等」という。）を対象とします。周辺市街地への配慮や今後の利活用を想定しながら、国立駅前の広場空間として必要な機能やデザインに関して基本的な方向性を定めます。

1-2 これまでの経緯

開発当初の都市空間が継承されている国立駅周辺

国立駅周辺は、大正末期から昭和初期にかけて文教都市くにたちの原点となる文化の香る個性ある駅前にしたという思いのもと、新しい都市として開発が進められました。国立駅と南口駅前広場は国立の顔として親しまれ、それを中心として大学通りなどの放射状道路がまちの骨格を形成し、国立らしい象徴的な空間や景観が形成されています。



大正15年当時の国立大学町の写真

南口駅前広場にある円形公園は、国立駅前が整備された大正15（1926）年当時から人が集まる広場として計画されています。当初は中央に水禽舎を配置していましたが、第二次世界大戦中に水禽舎が解体され池となりました。しかし今でも円形公園と池は、ほぼ当時のままの大きさで残されています。



水禽舎のある円形公園



昭和25年頃の円形公園

JR 中央線の連続立体交差事業等を契機とした新たなまちづくりの展開

JR 中央線連続立体交差事業に伴う国立駅南北の一体化を人を中心にした個性あるまちづくりを行う好機と捉え、国立市都市計画マスタープランに基づき平成 21（2009）年 11 月に「国立駅周辺まちづくり基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定しました。国立駅周辺のまちづくりを進めていくにあたっての基本的な方向性を示しています。

基本計画に記された事業の実現に向けて、国立駅周辺まちづくり会議として市民・関係者・関係機関で検討を進めました。平成 25（2013）年度には、JR 中央線連続立体交差事業が完了しました。国立駅前の南北の一体化という大きな転換点を迎えて、基本計画に位置付けられた様々な整備事業が進んでいます。

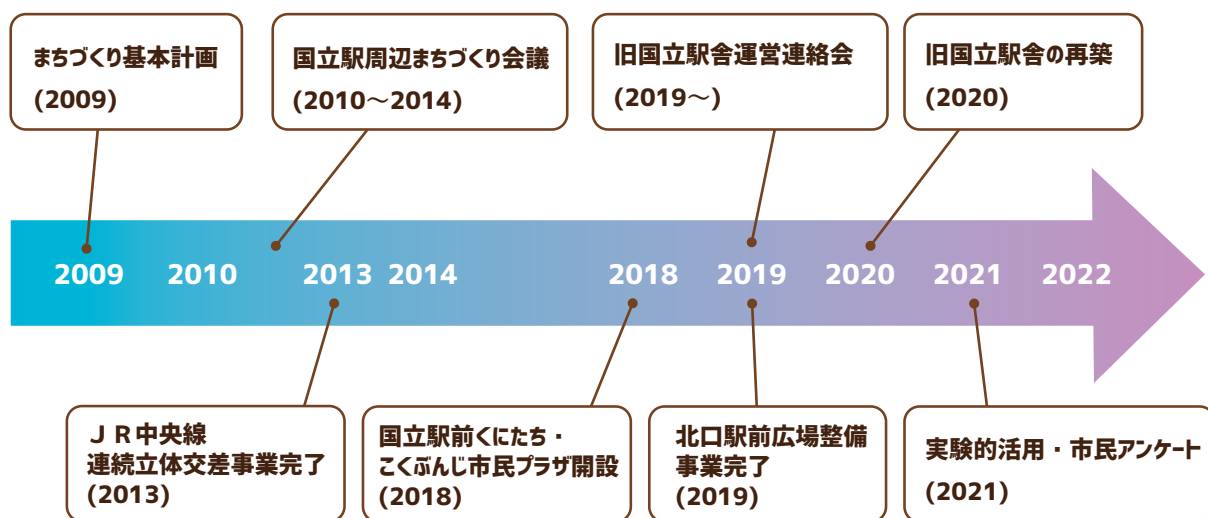
旧国立駅舎の再築による駅前空間のさらなる魅力の向上

まちのシンボルとして愛され、市民に利用されていた旧国立駅舎は、令和 2（2020）年 4 月に再築され、市の情報発信やまち案内とともに様々なイベントが開催されるなど「まちの魅力発信拠点」として活用されています。

そのような中、国立駅南口周辺については、旧国立駅舎周辺の土地所有者である東日本旅客鉄道株式会社と今後の国立駅周辺のまちづくりについて協議し、市が所有する国立駅南口複合公共施設用地と東日本旅客鉄道株式会社が所有する旧国立駅舎に隣接する東西の土地（以下「東西広場」という。）を交換することを令和 3（2021）年 3 月に合意しました。



再築された旧国立駅舎



取組の流れ

国立駅前の活用に向けた新たな取り組みと市民の思いの把握

国立駅前の活用に向けて市民の思いを把握し、アイデアを反映させるため、公募による市民委員等から構成する「旧国立駅舎運営連絡会」で旧国立駅舎の活用方法や管理運営などについて意見やアイデアを共有する作業を行いました。

また、活用方法について具体的なイメージを持ってもらえるように、令和3（2021）年4月と11月に、ガードフェンスで囲われていた東西広場を実験的に開放し、市民や国立駅の利用者などへのアンケートも実施して、意見の把握に取り組みました。

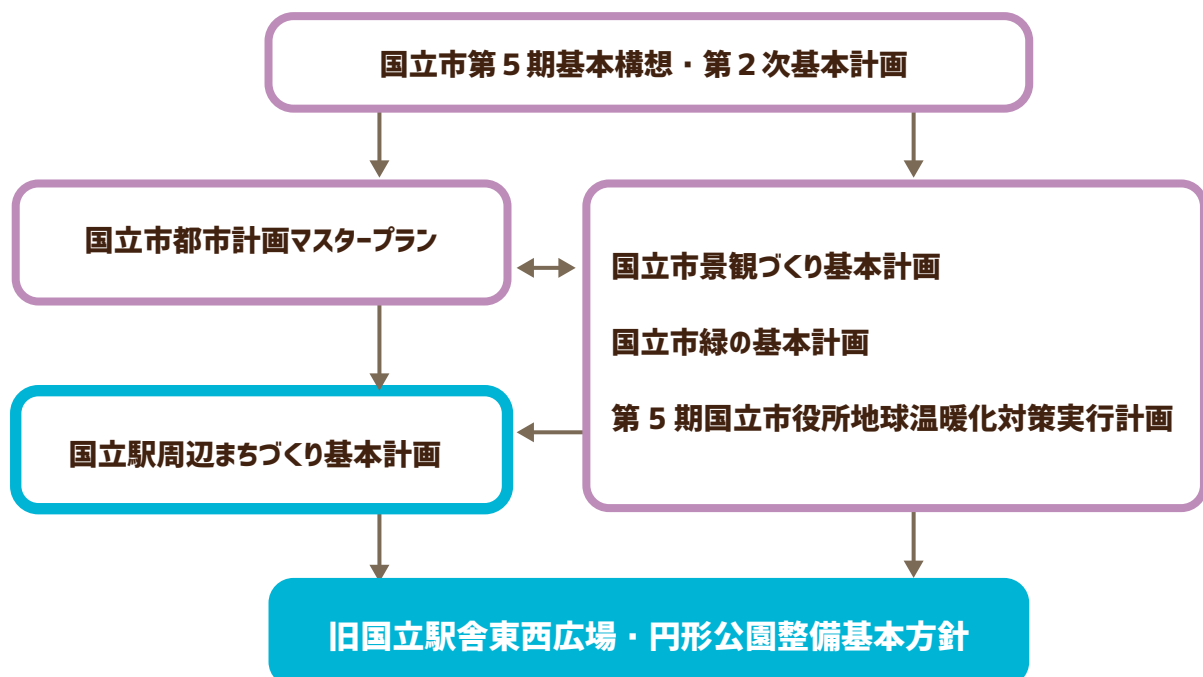
そのうえで旧国立駅舎運営連絡会では、旧国立駅舎を中心として広場整備をどのように進めていくか、円形公園をどのような空間にするのがよいかなどについても意見やアイデアを募りました。

1-3 整備基本方針の位置付け

整備基本方針は、国立駅前のいわば「顔づくり」に欠かせない大事な考え方を基本計画などの各種上位計画を踏まえてとりまとめました。これをもとに、今後の東西広場等の整備に向けて、空間のあり方を市民と共有します。また、令和4（2022）年以降に実施を予定している広場のデザインアイデアコンペやプロポーザル等によって選定される設計事業者にとって、この整備基本方針は設計の前提条件となります。



広場の実現に向けて、ソーシャルインクルージョンや持続可能な開発目標（SDGs）をはじめとする国立市が推進する様々な分野の取組に配慮します。



整備基本方針の位置付け

1-4 整備基本方針の対象範囲

整備基本方針では、東西広場等を中心に整備の基本となる方針を示します。さらに、国立駅前として東西広場等と周辺との連続性のある景観や統一感が大切になることから、南口駅前広場全体として今後の方向性についても検討します。

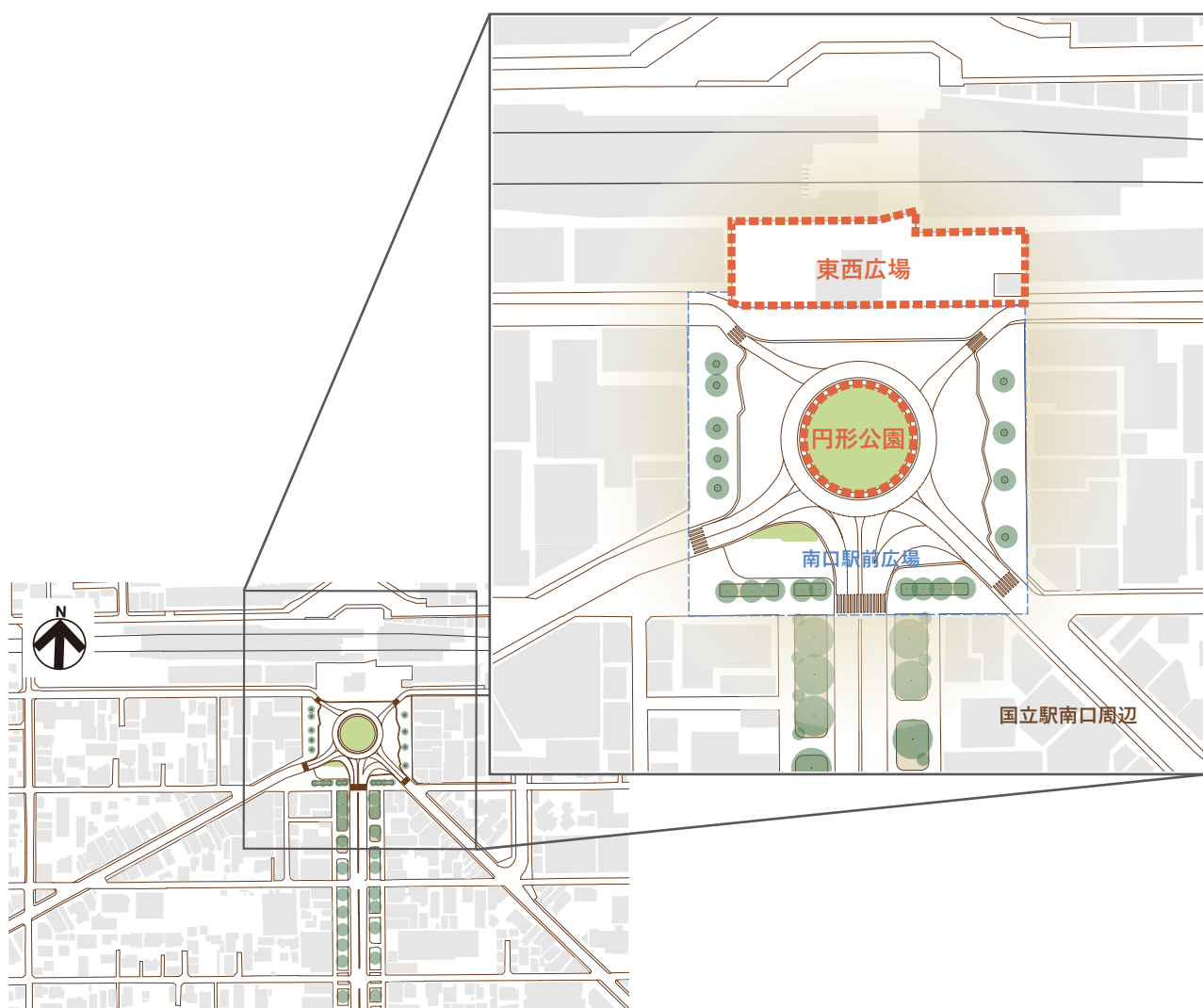
具体的に整備の考え方を定めるエリア

令和8（2026）年度に整備を予定している「東西広場」及び「円形公園」

国立駅前全体として整備・活用に取り組むエリア

東西広場及び南口駅前広場^{（※1）}に面し、都市空間として連続している市街地となる「国立駅南口周辺」

（※1）南口駅前広場は、都市計画に定める都市施設（交通広場）として指定されている区域とします。南口駅前広場・周辺道路の詳しい事業内容については、国立市ホームページに掲載されている「国立駅周辺整備事業の現在」をご参照ください。



整備基本方針の対象範囲

Topic

市民アンケートによる東西広場・円形公園の方向性の検討

令和3（2021）年11月に「東西広場・円形公園の整備と一緒に考えよう！」として市民アンケートを実施しました。

アンケートの実施概要

- 調査対象 | 住民基本台帳から無作為抽出した国立市在住の満18歳以上の男女3,000人
- 回答数 | 1,097件（回答率36.6%）



アンケート票

アンケート結果の分析

東西広場・円形公園の整備のコンセプトについては、「安全に歩き回ることができること」「国立らしい景観を大切にすること」「誰もがゆったりと過ごせること」が大切であるというご意見を多くいただきました。国立駅前の落ち着いた雰囲気を守るために、「周辺との調和」を重視するご意見も多くありました。

また、東西広場の利用については「休憩ができる」「待ち合わせがしやすい」など日常的な使いやすさを求めるご意見が多く、「歩行者の動線に支障がないこと」が重要であることといった傾向も読み取れました。円形公園の利用では「音楽のイベント」などのご意見が多くありましたが、円形公園へのアクセスに課題があり、前提として「安全性への配慮」が求められていることが分かりました。

このようにいただいたご意見の傾向を整理し、取組の方向性を設定して、それを本整備基本方針に反映しています。

設問 項目	結果分析による取組の方向性
問1 整備コンセプト	国立の雰囲気を守り、安心・安全に過ごすことができる駅前整備を進める
問2 東西広場の整備のポイント	歩行者の動線としての機能を維持し、居心地の良い空間整備を進める
問3 円形公園の整備のポイント	景観を守り、安心・安全に使うことができる場所としての整備を進める
問4 東西広場の日常的な利用	アクセス性、滞在したくなる居心地の良さなど快適性を重視した整備を進める
問5 東西広場の非日常的な利用	誰もが平等に多様な使い方ができるような整備を進める
問6 円形公園の非日常的な利用	安全性に配慮し、多様な使い方ができるような整備を進める
問7 整備の進め方	コストを意識し、市民意見と専門家意見をバランスよく取り入れる
問8 整備後の管理運営	維持管理コストの削減を図り、市民協働での管理運営を模索する
問9 国立駅前のまちづくり	各設問の回答結果の補足として活用

設問ごとの結果分析による取組の方向性

2 整備の基本的な考え方

国立駅前にふさわしい東西広場等の整備に向けて、広場空間を考えるにあたって大切となる「まち」「広場」「活動」の3つの視点で、整備のコンセプトと整備の目標、整備のポイントを次のように定めます。





2-1 整備のコンセプト

**これまでの歴史や理念を継承し、
旧国立駅舎とともに「くにたち」の顔となる広場空間を創出します**

大正 15（1926）年に開業した国立駅と国立大学町の成り立ちや、文化の香る個性ある駅前にしたいという都市デザインの理念として、これまでの 100 年をこれからの 100 年へとつなぐため「くにたち」の顔となる広場空間を創出します。

2-2 整備目標

国立駅前の現況やこれまでの検討経緯やアンケート等の市民意向を踏まえて、東西広場等の整備目標を次の 3 つの視点「まち」「広場」「活動」で定めます。

まちの視点

くにたちの拠点となる広場に

まちの歴史を伝える旧国立駅舎を大切なシンボルとして際立たせながら、市内各地をつなぐ玄関口、人や情報の展開するまちの拠点となる広場を目指します。

広場の視点

市民が誇りに思う誰もがくつろげる広場に

国立駅前のオープンスペースとして市民が誇りに思うことができ、気軽に訪れてみたい親しみやすさがある、利用する誰もがくつろげる広場を目指します。

活動の視点

いろいろな活動のできる広場に

誰もが安心して使え、いざというときに頼りになる場所でありながら、多様な活動が生まれ、市民の思いに対応できる広場を目指します。

2-3 整備の7つのポイント

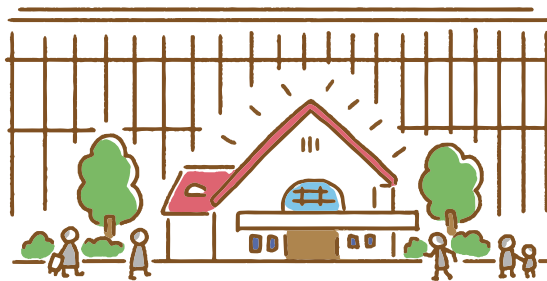
東西広場等を整備するにあたり、「まち」「広場」「活動」の視点ごとに、大事にしたい7つのポイントを整理しました。

まちの視点

旧国立駅舎のシンボル性を際立たせよう

令和2（2020）年に再築された旧国立駅舎は、国立市民なら誰もが知っているまちのシンボルです。

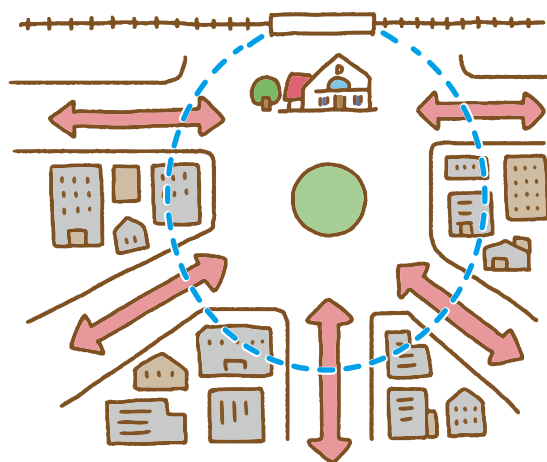
その周辺に東西広場等を整備・再整備するにあたっては、新しい広場が目立つのではなく、旧国立駅舎が主役となるような空間にする必要があります。



駅前と国立のまちをつなげよう

国立駅は国立市にアクセスするメインの玄関口です。東西広場等の整備では旧国立駅舎やその周辺を楽しめるような空間にするのはもちろんのこと、そこを出発点として国立のまちに出てもっと楽しみたいと思えるような都市空間や景観の連続性、仕掛けづくりが重要です。

さらに、大学通りの緑など駅前の大事な空間要素を東西広場等に取り入れ、まち全体としてつながることが大切だと考えます。



広場の視点

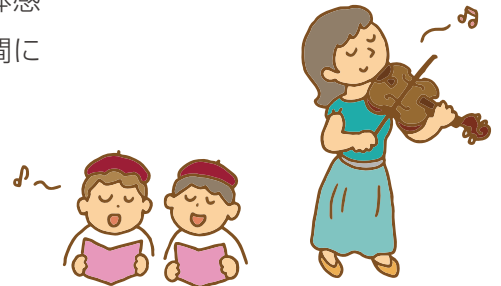
市民が自慢できる愛着の持てる空間にしよう

国立駅前の顔となるパブリックスペースとして今後長く愛される場所になるために、国立市民が自慢したくなる誇りと愛着を持てる空間となることが大事な視点と考えます。



国立らしさのある居心地の良い空間にしよう

国立駅前という利便性を感じながらも、広場空間として居心地の良さは最も大切です。季節や時間の移ろいを体感できる誰にとっても居場所となるようなくつろげる空間にする必要があります。



活動の視点

多様なアクティビティで使えるようにしよう

子どもや学生、子育て中の家族、高齢者、しょうがいしゃの方など多様な人が集まる場所としたいと考えています。様々な発想をもとに使い方が生まれ、実際の活動につなげられる空間であることが大切だと考えます。



みんなで新しい価値を生み出したい場所にしよう

国立に関わる市民や事業者、行政など幅広い人たちが協働することで、国立ならではの新しい価値を創造し、国立のブランド力を高めることができるでしょう。誰かと新しいことをしたい！と思える空間であることが重要だと捉えています。

安全・安心に配慮した維持管理しやすい空間にしよう

公共交通機関等のターミナル機能や利便性だけでなく、見通しの良さや動線の分かりやすさや災害時に頼りになる機能ももたせるなど、維持管理に配慮しながら、誰もが安心して過ごすことのできる場所となることが大事な視点と考えます。



3 東西広場の整備について

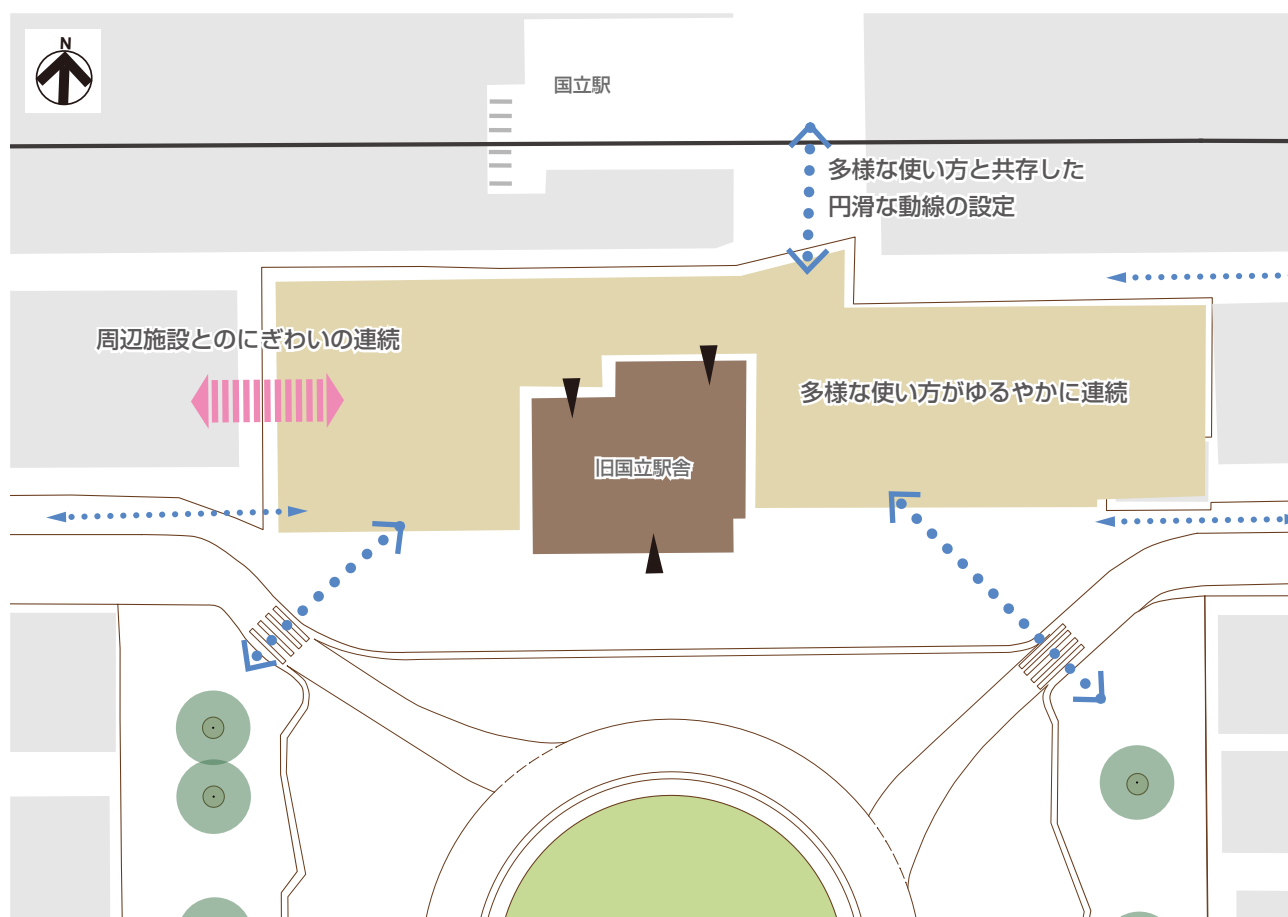
3-1 東西広場の整備の考え方

にぎわいや居心地の良さと共存した円滑な歩行者の動線を確保する

東西広場は、国立駅を出て最初に触れる空間です。南口駅前広場の基本的な機能として、国立駅とバス乗り場等の間をユニバーサルデザインで円滑に移動できることが大切だと考えます。その上で、様々な使い方ができるように、安全・安心に配慮した分かりやすい歩行者の動線の確保を行います。

様々な使い方がゆるやかにつながる空間を目指す

東西広場は旧国立駅舎が中心に位置し、周囲には建物が隣接しています。場所ごとの使い方をあらかじめ限定したり、特定したりせず、旧国立駅舎も含めてどの場所でも様々な使い方ができるようにします。東西広場で待ち合わせをしたり、緑を感じながら朝から夜まで一日の時間帯に応じて心地よく過ごすことのできる仕掛けを用意したり、周辺施設とのにぎわいを連続させたりするなど、駅前の空間として全体がゆるやかにつながる一体感のある空間を目指します。また、風や音といった環境への配慮や、災害時の活用に備えます。



東西広場の整備方針図

3-2 空間構成要素の整備の方向性

東西広場を構成する要素について、整備の方向性を次のように定めます。

空間構成要素	整備の方向性	
構造	ユニバーサルデザインを想定した段差のない歩きやすい構造とする ・道路路上、道路施設の歩道としての位置付けとなっています。ユニバーサルデザインの観点から、段差のない歩きやすい構造を基本として整備します。	
舗装	東西広場に隣接する敷地と馴染む舗装材を用いる ・東西広場の敷地境界が目立つようなデザインとはせず、旧国立駅舎の建物周辺や隣接する敷地に配慮したデザインや素材、色彩の舗装材を用いるものとします。	
植栽	南口駅前広場や大学通りとの連続性や多様な使い方に応じた植栽を設ける ・大学通りからの緑と連続しながら、イベント等の活用を想定して多様な使い方に対応できるような植栽の配置とします。 ・国立市緑の基本計画に基づき樹木の選定を検討します。	
ストリート ファニチャー（※1）	旧国立駅舎のデザインとなじむ素材や色彩とする ・旧国立駅舎のある空間として、隣接する建物デザインや旧国立駅舎がデザインされた時代性（大正時代～昭和初期）となじむ素材や色彩のものとし、旧国立駅舎を引き立てるデザインとします。 ・駅前広場としての歩行者の動線に配慮した配置とします。	
	ベンチ	・駅前広場としての歩行者動線に配慮して、落ち着いて過ごせる位置に配置します。 ・多様な使い方に対応できるように、イベント等で設置する仮設の施設を想定して、適切な場所に配置します。 ・災害時の活用も想定します。
	サイン	・国立駅の玄関口として、分かりやすく統一感のあるデザインとします。
	車止め	・イベント時の車の出入りや空間を有効活用するために、必要な箇所については昇降式とします。
施設	照明	・夜間時の安全性を確保するだけでなく、空間演出や演色性に配慮した照度や色温度の照明を設置します。 ・環境に配慮した照明器具を用います。
	東西広場等と一体性の感じられる施設デザインとする ・公衆トイレと交番の設置にあたっては、建物デザインを東西広場等や旧国立駅舎のデザインを考慮して、一体的かつ安全性の高い空間となるようなデザインとします。	
	公衆 トイレ	・中央線高架化に伴い駅前の公衆トイレを撤去移設した過去の経過や旧国立駅舎に公衆トイレが設置されていない課題などを踏まえ、東西広場に公衆トイレを設置するものとします。 ・整備にあたっては、ユニバーサルデザイン対応とし、旧国立駅舎のシンボル性に配慮した落ち着いた建築デザインを検討します。
水道・電気	交番	・交番は地域の防犯維持の観点から必要となりますが、設置から約26年が経過しているため、景観や動線などに配慮しながら建て替えなど含めて引き続き警視庁と協議を進めていきます。
	・イベントや災害時に使用できるように、適切な場所に整備します。	

（※1）街中に設置されたベンチやサイン、車止めなど物や機器の総称

4 円形公園の整備について

4-1 円形公園の整備の考え方

円形公園の歴史的な価値を継承し、シンボル性を高める

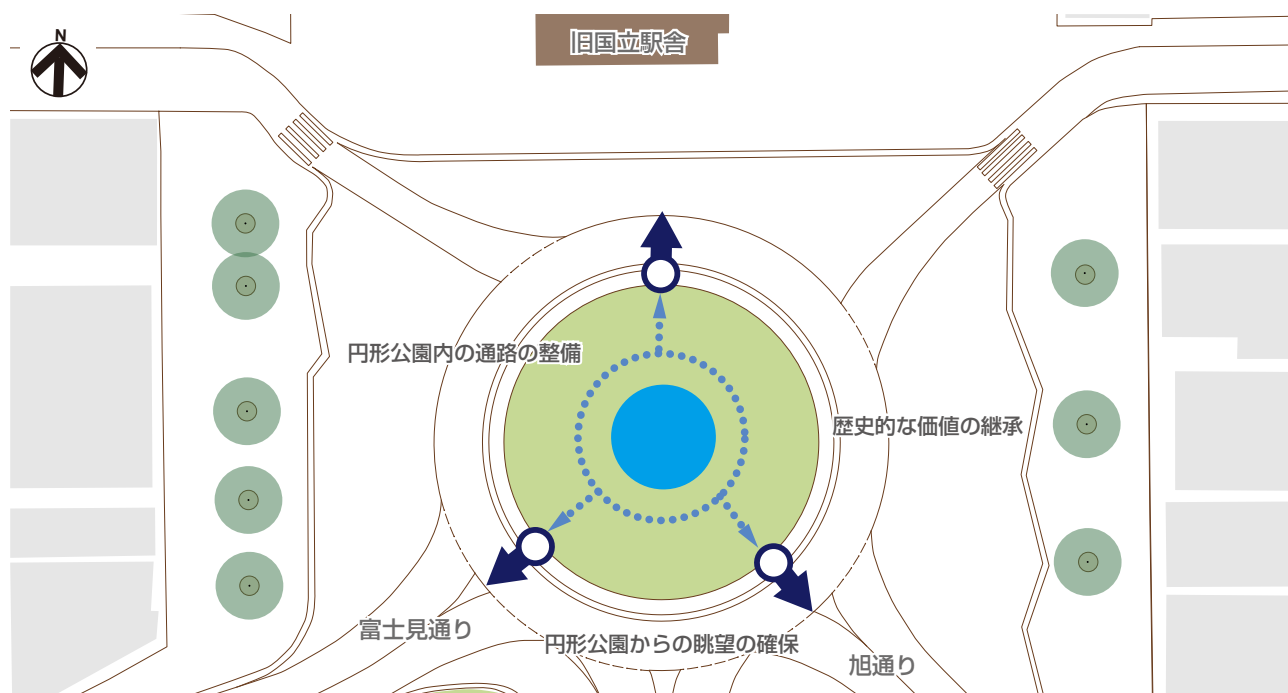
円形公園は、創建時には大学通り、旭通り、富士見通りの要（かなめ）となるように整備されました。円形公園の中央には水禽舎があり、第二次世界大戦中に水禽舎が解体され池となり、今も池はほぼ当時のままの大きさで残されています。

国立のまちづくりの原点として円形公園の歴史的な価値を継承するため、国立駅、富士見通り、旭通りとの関係性を強めるために、通路の整備や眺望に配慮するとともに、過去に設えられた空間を必要に応じて復元することで円形公園の歴史性を高め、よりシンボリックな空間とします。

とっておきの機会に人が集うことのできる空間を目指す

円形公園は南口駅前広場のロータリーであり、現状で公園内に入るとは想定されていません。

しかし、南口駅前広場の中心に位置する象徴的な場所であることから、活用の可能性も含めて再整備を検討します。日常的なロータリーとしての安全性は確保しつつ、東西広場と役割分担しながらイベント時に活用することや、災害時にも対応できるようにします。どのような活用ができるかイメージを共有するために、試行的に活用して、得られた知見を蓄積し、円形公園の特性にあった活用法を模索します。



円形公園の整備方針図



4-2 空間構成要素の整備の方向性

円形公園を構成する要素について、整備の方向性を次のように定めます。

空間構成要素	整備の方向性	
構造	周辺と一体的な活用のために段差のない歩きやすい構造とする ・安全性を確保し、東西広場や南口駅前広場と一体的な活用をするために、道路構造令を踏まえた上で段差のない歩きやすい構造を基本として整備します。	
舗装	3方向の通路を復元します ・円形公園の中心から国立駅、旭通り、富士見通りの3方向の通路を復元し、眺望を確保します。 ・当時のイメージを再現するように、歩行者空間としてインターロッキング等で舗装します。	
植栽	既存樹木の移植と活用を想定して整備します ・既存樹木については、一部東西広場などへ移植することを検討いたします。 ・南口駅前広場全体の活用を想定して、旧国立駅舎を主役とする開けた空間となるように花や芝生を整備することを検討します。	
ストリート ファニチャー（※1）	旧国立駅舎のデザインや時代性と馴染む素材や色彩とする ・旧国立駅舎に隣接する空間として、旧国立駅舎がデザインされた時代性（大正時代～昭和初期）となじむ素材や色彩のものとし、旧国立駅舎を引き立てるシンプルな意匠とします。	
	車止め	・円形公園の3方向の通路の出入口には脱着式や昇降式のボラード等を設置するなどして安全性を確保するとともに、イベント時にフラットな空間として活用できるようにします。
	照明	・照度計算により必要となった場合には、東西広場や南口駅前広場と同様のデザインの器具を整備します。 ・南口駅前広場内の照明柱を高くして、円形公園まで照らすなどして、高い構造物を設けないように検討します。 ・環境に配慮した照明器具を用います。
既存施設	施設の状況や活用を想定して再整理する ・円形公園のイベント時の活用を想定したうえで、具体的な方向性を定め各施設の状況に応じて残置・移設します。	
	池	・南口駅前広場としての一体的な活用を見据え、現状の池（消防水利）は地下化し、イベント等の際にはオープンスペースとしても活用できる空間として検討します。 ・創建時は水禽舎として利用され、戦後に池として使われていた歴史的経緯をふまえて維持管理コストにも配慮した親水空間の再整備を検討します。
	国旗掲揚塔	・創建当時から設置されているものであり、貴重な歴史資料として現状のままとします。 ・案内板は円形公園の通路の位置に合わせて移設します。
	時計	・国立にゆかりのある石彫家の作品であることから大切に保存します。 ・時計の設置場所については、眺望を確保するため移設を検討します。
	景石	・創建当時から設置されているものであり、貴重な歴史資料として現状のままとします。
	文教地区看板	・文教地区の看板については、国立市の象徴的な看板であるため景観等に配慮しつつ、より見やすい場所へ移設を検討します。

（※1）街中に設置されたベンチやサイン、車止めなど物や機器の総称

5 国立駅周辺の都市デザインの方向性

東西広場等の整備にあたっては、旧国立駅舎を中心に周辺の市街地と調和した、一体的な都市デザイン（良好な都市空間の形成）に取り組む必要があります。歩行者の動線や、みどりの連続性、さらに眺望や景観など、国立駅南口全体の街並みに配慮するほか、国立駅北口との一体的な活用も視野に入れます。

大学通りから続くみどりの連続性の確保

- ・大学通りの街路樹のみどりが旧国立駅舎に連なるように、東西広場においてみどりを確保します。
- ・JR 中央線高架化前に国立駅前に植樹されていたカンザクラについては、東西広場へ記念樹として植樹することも検討します。

歩きやすい歩行者ネットワークの形成

- ・旧国立駅舎の周囲は駅からの主要動線となります。東西広場と南口駅前広場全体を円滑に移動できる歩行者動線の確保や、案内サインの設置など使いやすい空間とします。
- ・南口駅前広場の再整備にあたっては、連続性のある舗装材やストリートファニチャー等を用いて東西広場等と周辺の市街地が一体的な空間となるようにします。

旧国立駅舎前と大学通りからの眺望景観や軸線の確保

- ・国立大学町の開発当時の都市デザインを後世に残すため、旧国立駅舎と円形公園を要として3方向に広がる、大学通り・旭通り・富士見通りを軸線として意識できるようにします。たとえば、大学通りを視点場として旧国立駅舎への眺望を確保できるようにします。



大学通りからの眺望



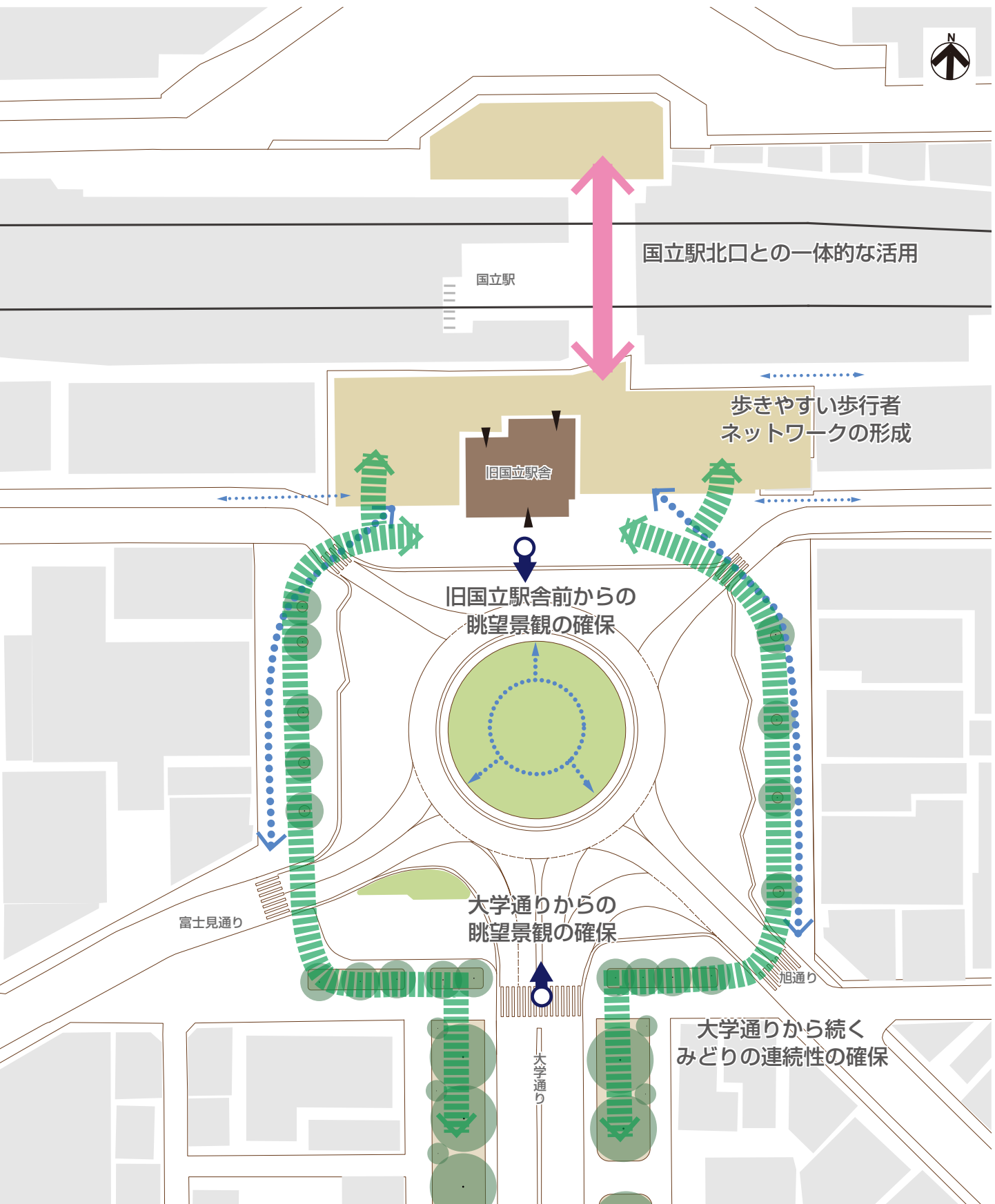
旧国立駅舎からの眺望



円形公園から富士見通りの眺望

国立駅北口との一体的な活用

- ・国立駅周辺として、東西広場と連動したイベントを北口駅前広場で開催するなど、国立駅の南北をつなぐ一体的な活用を目指します。



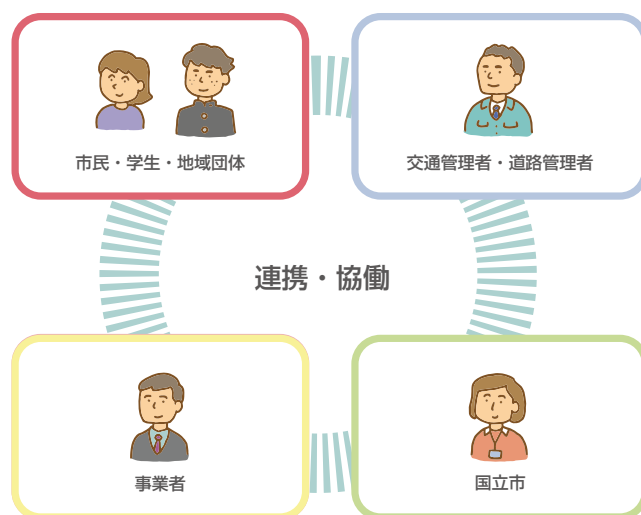
国立駅南口周辺のまちづくりの方針図

6 整備の実現と活用に向けた取組

6-1 効果的な活用・管理の体制と仕組みづくり

東西広場等を市民や来街者にとってワクワクする空間としてあり続けるためには、市民の誰もが広場でこんなことをしてみたいというアイデアを継続的に実現できることが大切になります。そのためには、活動を支えるしっかりした仕組みやそれに基づいた管理が必要となります。

これらを実現するために、国立市民や事業者等、国立市などが協力しながら取り組むことが重要となります。



活用に向けた体制づくり

- ・東西広場等の活用状況に合わせて周辺の事業者も参加できるようにし、国立駅周辺のまちづくりについて考えるための体制の整備を検討します。
- ・魅力的な広場空間として継続的に活用するために、歩行者動線を確保しながら国立駅前にふさわしいにぎわいを適切にマネジメントします。

公共空間を柔軟に活用する条例等の制度づくり

- ・今後、道路法上で道路として位置づけられる予定である東西広場は、道路空間を活用したイベント等を開催するための道路占用を円滑に行い、お試し活用から大規模なイベントまで多様な活用や関わり方に対応できる仕組みづくりが必要となります。
- ・具体的には、次のような取り組みが考えられます。これらの仕組みを整えながら、市民や地域団体等による実践を重ねます。

①道路占用許可手続きに向けた法令・制度整備の検討

(例：広場条例、歩行者利便増進道路制度 等)

②活用ルール of 検討

(例：ガイドライン 等)

③活用ルールの効果的な運用手法の検討

(例：指定管理者 等)

円形公園のイベント時における活用に向けた関係者との協議

- ・円形公園は南口駅前広場のロータリーであり、現状で公園内に入るとは想定されていません。しかし、南口駅前広場の中心であり、国立駅前整備のシンボリックな空間であることから、イベント等で活用できるように仕組みを整えます。
- ・活用にあたっては、一時的にバス停及びタクシー乗り場を移設するなど歩行者の安全性を確保し、臨時で車線の変更を行います。市民まつり等により大学通りが歩行者空間となる際には、利便性を確保しながら、東西広場～円形公園～大学通りを自由に歩けるよう、交通管理者等と十分な検討・協議を進めます。
- ・南口駅前広場全体を活用する際には、南口駅前広場の周辺の道路に迂回路を設けるなど、代替措置を講じ、公共交通機関や緊急車両等を中心にイベント時の自動車の動線を確保します。



円形公園イベント
令和3（2021）年10月

6-2 整備のプロセスを市民と共有する場づくり

整備プロセスへの市民意見の反映

- ・設計から活用まで、市民が検討に継続的に関与することができるようにするため、設計者による設計の検討プロセスを明確にします。
- ・例えば、設計段階で報告や意見交換等を行い、お試し活用など実際に使い方を試しながら市民意見が設計案に反映できる機会を設けます。

検討状況の情報共有の充実

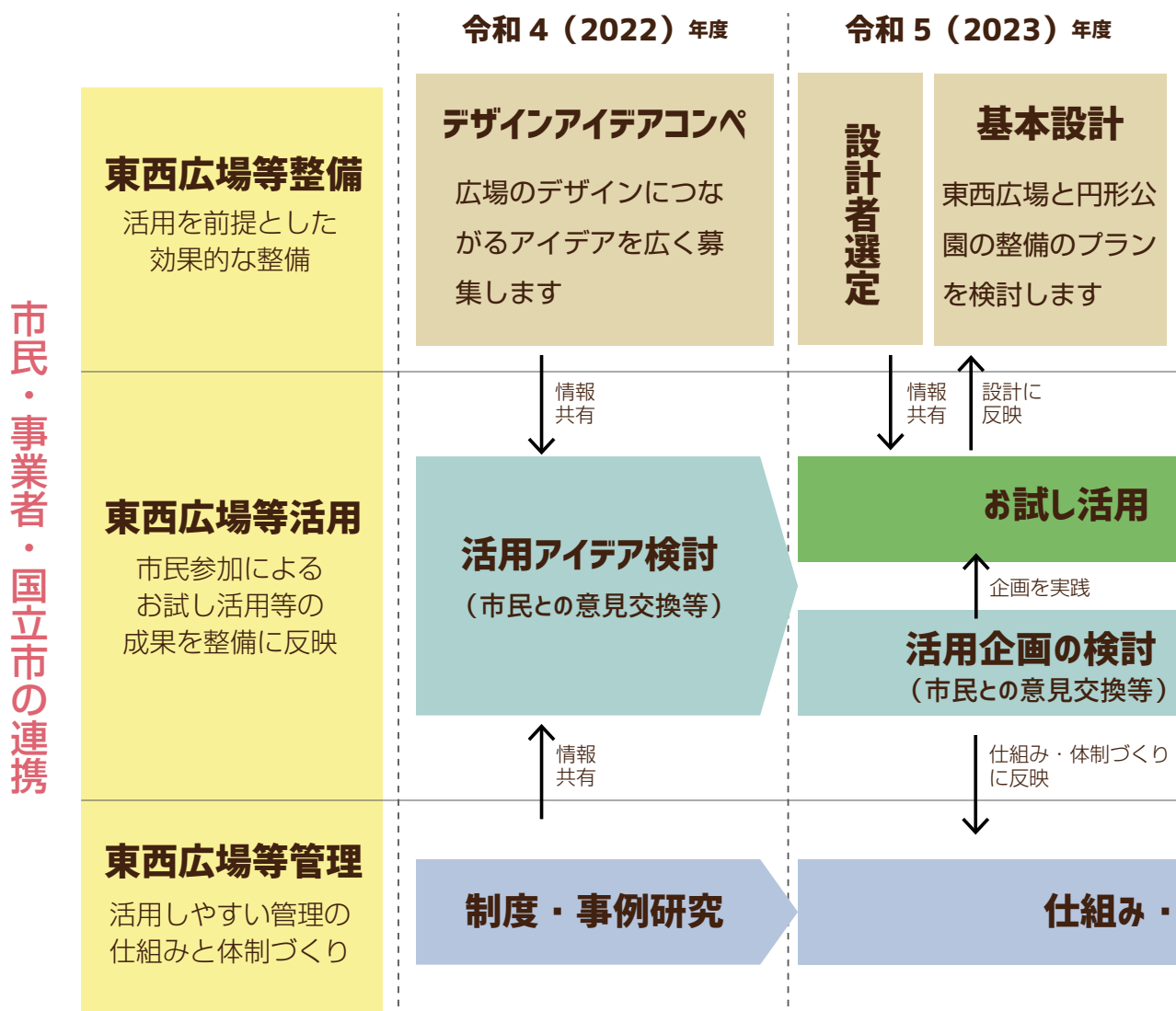
- ・整備状況の分かりやすいロードマップをまとめ、東西広場等の整備に向けてどの段階であるかを共有できるようにします。
- ・駅前空間のイメージの共有を図りながら定期的に情報共有やイベント等を開催し、国立らしさの感じられる駅前空間のブランディングに取り組みます。



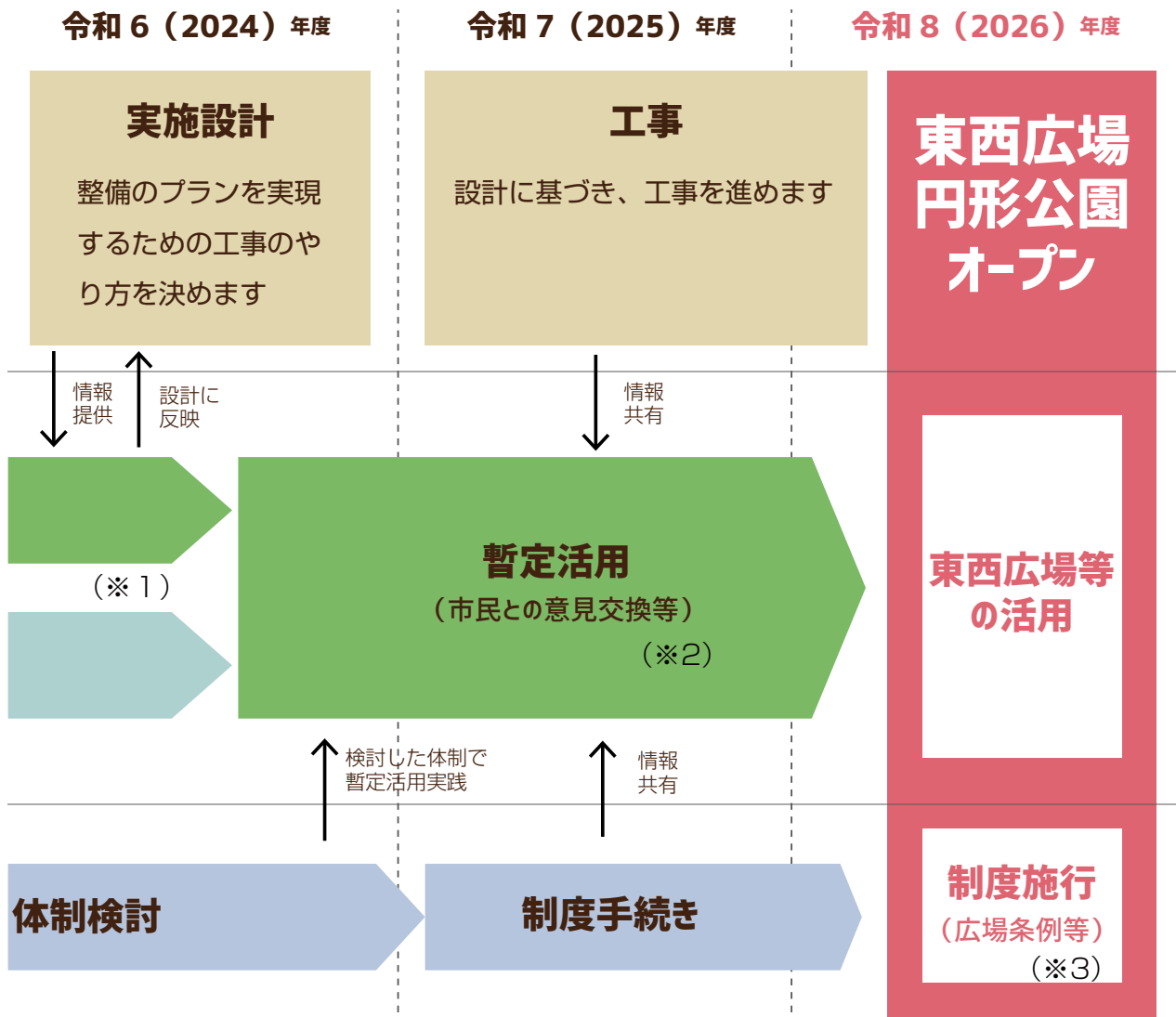
東西広場開放イベント
令和3（2021）年11月

6-3 整備の実現に向けたロードマップ

東西広場等の整備は国立駅開業 100 周年を迎える令和 8（2026）年度の完了を目標に進めます。取組にあたっては、整備・活用・管理の 3 つの視点で、維持管理コストに配慮しながら市民が活用したくなる広場空間の整備の実現を図ります。



(※1) 「活用企画の検討」では、商工会・自治会・駅周辺関係者・市内まちづくり関係団体・市民それぞれの意向をしっかりと把握するとともに、意見交換等の開かれた場で検討を進めます。周辺商店街への波及効果や多くの市民が関わられることを前提に具体的な活用企画を検討し、実際に活用してその効果を検証する「お試し活用」を実践しながら、民間事業者が作成した基本設計案への意向反映（デザインレビュー）などにより、協働で基本設計案をまとめていくプロセスを想定します。



(※2)「**暫定活用**」では、東西広場等管理において検討した体制により、にぎわいづくりや商店街・周辺市街地への波及効果を見据えながら、国立駅北口や国立駅南口周辺、将来的には国立市全域まで対象を広げて活用実践を積み重ねます。既存団体等との連携方策の整理や、多様な活用主体の発掘・育成もあわせて検討するとともに、将来的なエリアマネジメントの推進を見据えた検討を進めることを想定します。

(※3)「**制度施行**」では、公共施設である東西広場等が柔軟かつ円滑に活用でき、持続可能な管理が行えるように、必要な制度活用を検討します。管理運営主体の形成、規制緩和、資金・人材・ノウハウ等の支援策を合わせて検討するとともに、将来的なエリアマネジメントの推進を見据えた検討を進めることを想定します。

資料出典一覧

- ・ P1「大正 15 年当時の国立大学町の写真」 くにたち郷土文化館所蔵
- ・ P1「水禽舎のある円形公園」 くにたち郷土文化館所蔵
- ・ P1「昭和 25 年頃の円形公園」 明窓浄机館所蔵

旧国立駅舎東西広場・円形公園 整備基本方針

令和4（2022）年7月

国立市 都市整備部 国立駅周辺整備課

住所 | 〒186-8501 国立市富士見台 2-47-1

電話 | 042-576-2111 内線 382・383

FAX | 042-576-0264

Eメール | sec_kuniseibi@city.kunitachi.lg.jp

ホームページ URL | <https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/>

編集協力 | 株式会社 石塚計画デザイン事務所